

『第一藝文社をさがして』

早田リツ子著

製本行程のトラブルにより、
取次搬入日が1/13に変更になります。

映画と詩と生け花の本を刊行した、戦前のひとり出版社の評伝。

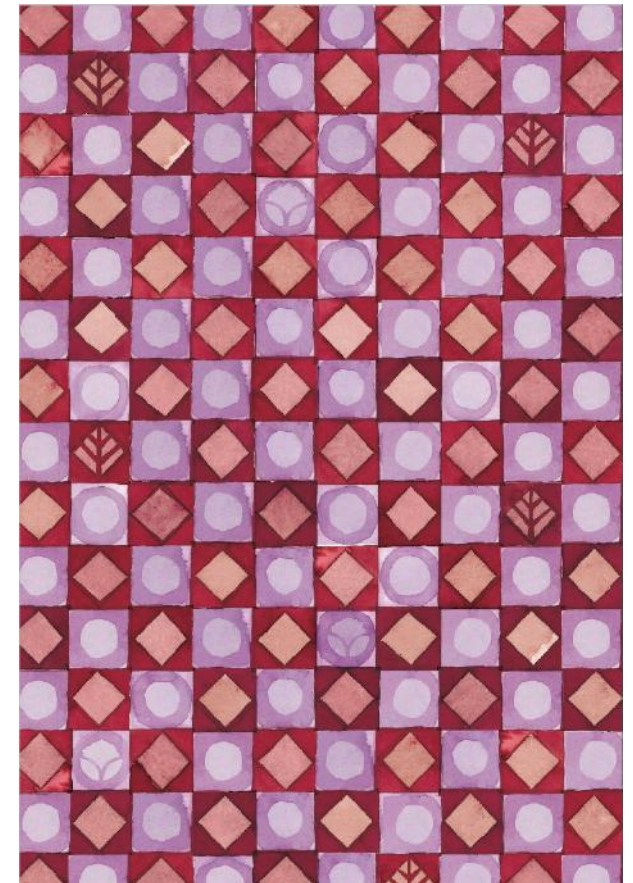
第一藝文社（1936-44）は主に京都で活躍した戦前の出版社です。社主は中塚道祐。彼のほかに社員はいませんでした。伊丹万作の最初の本（『影画雑記』、1937）や、アニメーション映画の評論の嚆矢ともいえる今村太平の『漫画映画論』（1941）、杉山平一の詩集『夜学生』（1943）などの名著を刊行した第一藝文社とはいったいどんな出版社だったのか？ 著者は遺族に会いに行き、図書館と古書店をとおして、その秘密を時間をかけて、ひとつひとつ解き明かしていきます。

そこにはひとりの編集者と作家たちの出会いがあり、大きな戦争がありました。地味で、無骨で、読み応えのある類書のない評伝。装幀は、なんとオールカラーの布装。小川哲さんの絵を布に印刷し、本に貼り付けます。さらにそこに半透明なカバーという凝った造本。きっと、美しい本になります。

価格：2500+税 / 312頁

四六版変形 / ハードカバー ISBN 978-4-904816-38-7 C0095

取次：JRC（すべての取次からの搬入が可能です）



ご注文は JRCへ FAX : 03-3294-2177 電話 : 03-5283-2230

発行 夏葉社 TEL/FAX 0422-20-0480 東京都武蔵野市吉祥寺北町1-5-10-106

ご迷惑をおかけし、誠に申し訳ありません。

貴店名

部数

冊

ご担当者様

発行
夏葉社

第一藝文社をさがして

早田リツ子 著

本体2500円+税